

上越数学教育学セミナーのご案内

上越教育大学に外国人研究員として滞在しているデンマークからの 2 名の研究者にお話ししていただきます。数学教育について気楽に話し合えればと思います。是非ご参加ください。

日 時： 2015 年 10 月 22 日（木）13:00 から

場 所： 上越教育大学 自然棟 718 教室

対 象： 教員， 院生， 学生， 関心のある方

言 語： 英語。特に通訳は考えておりませんが，必要に応じて。

講演者： カイ・アストーゴー *Kaj Østergaard*（デンマーク・VIA 大学及びロスキレ大学）

題 目： *Danish education System – with a special perspective on teacher education*
（デンマークの教育制度：教師教育に特に焦点を当てて）

概 要： この講演では，数学の教師教育に焦点を当てて，デンマークの教育制度の概要についてお話しいただきます。特に次の 3 つの課題を扱います。(1) “新北欧学校” に代表される北欧のアプローチとアジア諸国の成功に代表される“東洋”のアプローチの関係。(2) 数学教師は「数学を教える教師」か「数学を教える数学者」か？(3) 教師の知識を記述する 2 つの異なった方法，*Mathematical Knowledge for Teaching* (Ball, Thames & Phelps, 2008) と数学コンピテンシー (Niss, 2011)。さらに，デンマークの教師教育において授業研究を導入するプロジェクトについて簡単に紹介します。（文責：宮川）

講演者： ヤコブ・ベーン *Jacob Bahn*（デンマーク・UCC 大学及びコペンハーゲン大学）

題 目： *Lesson Study and inquiry based mathematics education*
（授業研究と探究型数学教育）

概 要： 氏が現在進めているプロジェクトについてお話しいただきます。このプロジェクトでは，教師が授業研究 (LS) とオープンエンドアプローチ (OEA)，さらに教授学的状況理論 (TDS) にもとづいた授業デザインの基本モデルを用いて，授業での生徒の活動や学習の質を高める方法を探究しています。研究としては，次のような問いに答えようとしています。オープンアプローチに基づいた授業の可能性を引き出すためには，教授学的契約とミリューという視点から，いかなる条件が重要になるのか？授業研究は，いかなる条件の下，そのような授業をデザインし実施するための教師の資質向上に貢献できるのか？いかなるリソースが，TDS の果たし得る役割という視点から，教師のそのような活動を支援できるのか？（文責：宮川）